

藤井寺市観光ボランティアの会

美陵ガイドクラブ会報

〒583-8583 藤井寺市岡1-1-1(藤井寺市役所 藤井寺市観光協会内)

TEL:072-939-1086 FAX:072-936-9777

URL:http://www.fujidera-kanko.info/volunteer/volunteer_top.html

第12号 2013年12月

《藤井寺市民まつり(しゅらまつり)》 9月22日(日)

<メインステージ> 「帰ってきたまなりくん」



恒例の藤井寺市民まつりが9月22日に行われました。

当会は「古市古墳群を世界遺産に」をテーマに寸劇「帰ってきたまなりくん」を舞台上で演じました。あらすじはまなりくんの帰国を待ち望む人々が千手観音様をお願いすると願いが叶い、藤井寺に帰って来ると言う設定です。メンバーはそれぞれ手作りのコスチュームに身を包み時代を彷彿とさせました。

その中で「紙芝居・とべとべ座」による大型紙芝居「とべとべルカ」が二ヶ国語で演じられました。また、女性8人による観音さまの千手のパフォーマンスは、評判となり、地元のコミュニティ紙でも掲載されました。最後には帰ってきたまなりくんを囲み会場の皆さんと一緒に「古市古墳群の世界文化遺産登録を実現しよう！エイ・エイ・オー！」のエールで華やかに幕を閉じました。

終了後はまなりくんが立ち寄ったとされる五島列島の椿飴をプレゼントし、握手会でもまなりくんは人気を博しました。最後にご協力いただきました川上恵氏、「紙芝居・とべとべ座」の皆さまに感謝申し上げます。

(山口)

<テントブース> 「世界遺産クイズ・折り紙・紙芝居」

午前中は昨年に続き世界遺産クイズと、子供さんと一緒に折り紙を楽しみました。用意したプレゼント240個はあっという間になくなるほど次々と大勢のお客さんが来られました。お相撲さんを折る時には難しそうなお顔を折る子もいましたが、折りあがったお相撲さんをボール箱の上でとんとんと叩いて遊ぶ紙相撲は大喜びでした。

午後からは紙芝居の新作「あかむくの木」他2作を上演し、「うっかり雷」では扮装した会員の雷夫婦が登場し、子供さんと一緒に手遊びもしました。その後の手品では不思議そうに見つめる子、身を乗り出して挑戦する子などもあり、大人も子供もみんな笑いに包まれ今年もテントブースは大盛況でした。(増原)



《のぼりのお披露目》

藤井寺市をイメージする藤色を基調としたのぼり旗を作りました。文化遺産の古墳と、いにしえから未来に伸びるロマンの風を配して、「ふじいでらの伝統と夢を語り継ぐ」の思いを込めました。合わせて同様のデザインの名札も統一しました。(鈴木)

《秋季ふじいでらウォーク》 10月19日(土)

—古市古墳群巨大古墳ビッグ10をめぐる パート2—

あいにくの小雨模様の中、3班編成で1時ごろから順次葛井寺をスタートしました。古市古墳群ビッグ10の内津堂城山古墳のほか3基の古墳と古代豪族ゆかりの神社・仏閣等16か所をめぐりました。

葛井寺境内では旗掛けの松の下で三本の松葉さがしから始まり、津堂城山古墳から伴林氏神社まで一気に進みました。その後、允恭天皇陵古墳、仲姫皇后陵古墳、応神天皇陵古墳までの国府台地の古墳銀座を歩き、途中の古室山古墳墳頂部では眺望を楽しんで頂き、最終の道明寺、道明寺天満宮を目指しました。

また、新会員も度胸を据えて説明したり、道中での誘導や会話で笑いを誘い、時には腰をかけて説明を聞いていただくなど、おもてなしの心を持ってご案内しました。

最終の道明寺天満宮では少しずつ暗くなりつつありましたが、皆さんが元気にゴールされました。あいさつの後笑顔で帰路につかれ、一部の人は天満宮での筑前琵琶演奏の会場に向かわれました。(田仲)



《大阪・奈良歴史街道'ルーウォーク》 10月27日(日)

10月では最多数となる台風が過ぎ、すがすがしい秋空のもと、第14回大阪・奈良歴史街道'ルーウォークが当会担当として開催されました。ウォークに先立ち実行委員会の方々によるセレモニーが行われ、ウォークの成功を願って「エイ・エイ・オー」とエールが送られました。今回は「遣唐使たちの熱き夢の跡を訪ねてみませんか？」というテーマのウォークで、藤井寺市ゆるキャラの「まなりくん」に見送られながら、300名を超える参加者が11組の班にわかれ、順次道明寺天満宮を出発しました。担当した班のお客様は、和歌山、奈良、地元の方々など様々ですが、私たちの説明に熱心に耳を傾けて頂きました。特に伴林氏神社では「こんなところに立派な神社が・・」と感心されていましたが、説明は大伴古麻呂から伴林光平、鈴木孫一と、ついつい脱線してしまいました。



古室山古墳の後円部で眺望を楽しみながら昼食を摂り、応神天皇陵古墳では少し世界文化遺産登録のPRをさせて頂き、葛井寺まで皆さんお元気でウォークを楽しまれました。また最後の藤本酒醸造では仕込みの水や古酒等も試飲でき笑顔でお帰り頂いたのを見届け、楽しいガイドの一日を終えました。(岩崎)

《現地研修》 「観心寺から千早赤阪村まで」 11月26日(火)

秋深し～紅葉の真盛りに府下でも有数の景勝地の観心寺と、南北朝時代日本国中から脚光を浴び大活躍した、楠木正成公の生誕地千早赤阪村へ現地研修に行きました。参加者は36名となり市の貸切バスには乗りきれず、乗用車3台の相乗りとなりました。地元の観光ボランティアの方から詳しく説明を受け、観心寺の絢爛豪華さ、金堂はさすが国宝だけの事はあると、改めて感銘を受けました。その他重要文化財の書院、諸堂が多数あり全体のスケールの大きさと、悠久の歴史建築物の重厚さに感服しました。ただ国宝の如意輪観音坐像と観心寺縁起資料帳が四月のみ公開の為、見学出来なかったのが唯一の心残りでした。

続いて大阪府下唯一の村千早赤阪村で、楠公誕生地、産湯の井戸、下赤阪城跡、棚田、郷土資料館、奉獻塔、建水分・南木神社を見学し、楠木正成公が大自然に囲まれ伸び伸びとした環境の中で育ち観心寺で修業して、有名な非理法権天<菊水の教え>を生み出し、大きく成長して、天皇に信頼される立派な武士として活躍した事がよく分かりました。

今回参加者も多く、和気あいあいと歴史の研修と秋の紅葉を心と身体一杯に満喫でき、有意義な一日でした。(赤木)



《第18回 福祉まつり》 11月10日(日)

毎年の取り組みとして今回も塗り絵と紙芝居で参加しました。塗り絵は朝から大盛況で椅子が空く暇が無いほどでした。今の子供には縁が薄くなった感のある塗り絵も6種類ある中から「塗りやすそう」「可愛い絵」などと選んで、集中して熱心に取り組む姿がほほえましく思えました。紙芝居は、新作「あかむくの木」を始め藤井寺の民話を4本、その間には手遊びなどで子供たちと一緒に楽しく過ごしてもらいました。午前・午後で二回の実施とも終わるまでしっかりと見てくれました。塗り絵は170名の参加があり、スタッフもてんでこ舞いでした。紙芝居は椅子の数で制限がありましたが、延約50名の方に参加頂きました。

会場全体では最後まで、お客様がいっぱいで、楽しい地域交流の場になっていました。(山崎和世)



あかむくの木



会場風景

《新資料作り?》

お客様からのウォーク申し込みの場合は、お客様の御希望に沿ったコースを作成し御案内していますが、今回今迄ご案内した事のない「善徳保公園・大和川治水記念公園内碑・玉手橋記念碑」が入っていました。ところが肝心の資料がありません。

そこで、それぞれの碑については、柏原歴史資料館から資料を頂きました。しかし数ヵ所空白部分があり、更に柏原郷土史を探る会の資料も見せて頂きましたが、まだ足りず、近畿地方建設局大和川工事事務所の資料を合わせてやっと出来上がりました。又「善徳保公園」については「角川日本地名大辞典」で調べた物をもとに作成しました。その結果ウォークの案内に少しは役立ていただく事が出来たかと思っています。どんどん増えつつあるウォークの申し込みにより、何れ資料不足の箇所が出てくる事も考えられ、まだまだ勉強なくてはと思う事でした。(菱木)

《上半期ガイド実施結果》

平成 25 年度上半期(4 月～9 月)の一般申込によるガイド実施件数は 14 件で、計 253 名の方々をご案内しました。(昨年度は 10 件 121 名)

この時期は例年来客の少ない時ですが、ホームページの充実等により着実にガイド依頼が増えています。

また、市内小学校の6年生を対象とした世界遺産学習のフィールドワークのお手伝いも定着し、広く交流を図ることができました。(ガイド部)

《藤井寺の偉人、伴林光平(ともばやしみつひら)》

藤井寺市林にある尊光寺の前に「君が代は巖とともに動かねばくだけでかへれ沖津白波」の歌碑がある。この寺に生まれた伴林光平の辞世の歌である。幕末、ペリーをはじめ開国をせまる艦隊に対し、皇国をまもる思いを詠んだものである。伴林光平は文化 10 年(1813)に生まれ、今年が生誕 200 年にあたる。奈良県の各地、八尾市などで生誕二百年祭が催された。また、天誅(忠)組に参加してとらえられ斬首されたのが文久 4 年(1864)、今年 150 回忌でもあり、尊光寺で有志による法要が行われた。

光平は天誅(忠)組の記録方として名が知られているが、むしろ書画、漢学、国学、歌道に多くの作品を残すとともに、優れた弟子を輩出した功績に対して、近年高い評価がされるようになっている。獄中で認められた「南山踏雲録」は、随所に和歌が詠まれ“近代文学界の絶品”とも評されている。当地南河内では、潮音寺、真蓮寺などで歌会を催すなど文芸活動に寄与した一方、仲姫皇后陵などの山稜調査にも長く携わり天皇にまで聞こえおよんだということである。藤井寺から輩出した誇り高い偉人として、永く讃えていきたいものである。(鈴木)



尊光寺

国府遺跡物語その一 国府遺跡の発見

これから数回にわたり、惣社にある国府遺跡のお話をさせていただきます。国府遺跡は古市古墳群とともに古くから全国に知られた有名な遺跡です。なぜ、有名になったのか、遺跡の発見の経緯からお話を始めたいと思います。

国府遺跡が学術雑誌に登場したのは、今から 120 年以上も昔、明治 22 (1889) 年のことです。『東京人類学会雑誌』第 4 巻第 39 号に載った山崎直方さんの短い通信文です。その全文を紹介しましょう。「河内に於ける石器時代遺跡の発見 拝啓近来如何なるまはり合せにや毎日曜降雨の為何等の遠足も不仕遺憾ながら遂に一片のご通知も不申上候處今日曜日には断然雨を衝て遠足し其結果は實に望外にも望外にも至極面白き事にて御坐候實に五月十九日は本邦に於ける人類学の歴史中一の記念日とも可至程小生は羨しく感じ申し候何となれば小生は石器時代の顕然たる遺跡を河内國に発見仕候幸に後報御待ち被下度候(山崎直方)」

望外を二度繰り返すところに山崎さんの興奮の度合いを測ることができるでしょう。ただ、この短文には発見した遺跡の場所は河内としか書いていなかったのです。

藤井寺市教育委員会 天野末喜



山崎直方さんの国府遺跡スケッチ
(山崎「河内國ニ石器時代ノ遺跡ヲ発見ス」『東京人類学会雑誌』第四巻四十號 1889)

古墳のある風景 3 エッセイスト 川上 恵

寂しい名を持つ天皇

英雄の父とやり手の妻、そして出来た息子。こんな家族に囲まれた男は不幸である。父親は神話の英雄ヤマトタケル、妻は三韓征伐で、身重の体ながらお腹に石をまいて出兵した、かの有名な神功皇后。そして息子は、日本に文字や先進の文化を導入した先見の明ある応神天皇。実はこの息子の出生も誰の子か怪しいものだと、世間はかまびすしい。

私はそんな影の薄い仲哀天皇に同情をする。

だがそんな世俗を超越したように、大和のシンボル二上山を遠景とした仲哀天皇陵は堂々と端正である。

仲哀天皇は父が大好きだったそうだ。父の墓所も息子の墓所も近くである。会いたいと思えばいつでも会える距離にある。だが、妻の陵は奈良県佐紀古墳群と遠い。神がかりの妻とは離れた所で、静かに眠りたいのだろうか。

ところがである。最近この陵は倭の五王の武、つまり雄略天皇の陵墓ではないかとの説が有力になってきた。なるほど、そんな目でみると、ますますこの古墳は威風堂々と風格を持って見えてくる。そして仲哀などと寂しい名を持つ天皇は、その存在さえ儂げになってゆく。



仲哀天皇陵古墳